

静岡県の人口と世帯

人口 2,912,520人
 男 1,428,487人
 女 1,484,033人
 世帯 654,046世帯
 (昭和40年国勢調査集計概数)

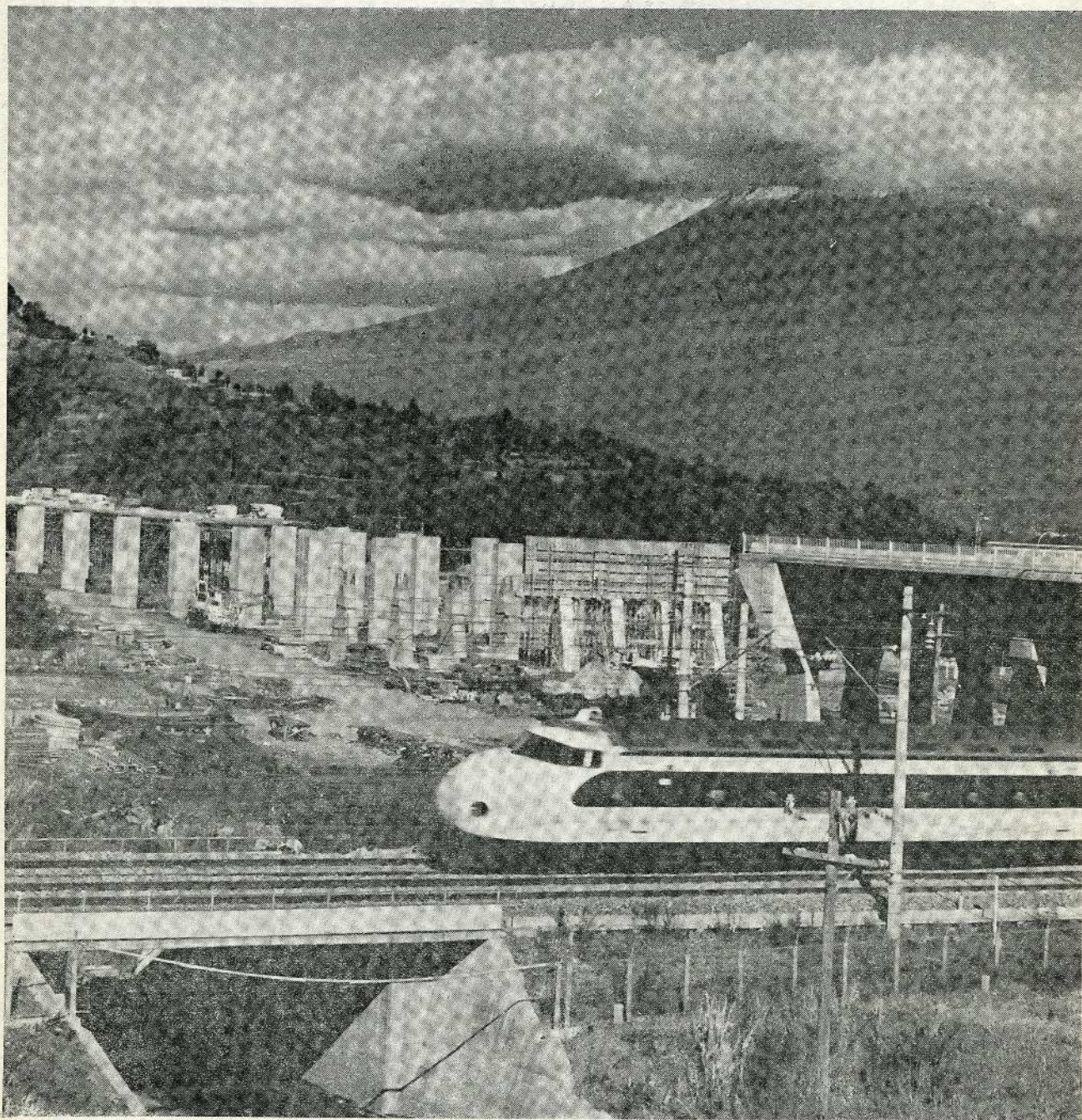
県民だより

静岡県広報紙

1966年1月 No.94

編集発行・広報課

静岡市追手町 県庁内



新春を疾走する

◇ 昭和四十一年の新春を迎える。戦後二十年、復興から建設へ、郷土のすがたは大きく変貌した。焦土にはビルが立ちならび、日夜をわかつたぬ産業活動は、ふるさと静岡県に新しい生命を吹きこんだ。

◇ 国鉄新幹線は建設から繁榮への第一歩であり、アイボリーホワイトの帯は東から西へ、西から東へ、すさまじいスピードで時間を切る。

◇ 距離の時代はすぎた。そして訪れる時間の時代。東名高速道路も、時間を短縮するあたらしい線である。交差する高速道路と新幹線。時間と時間の交差は、さらにあすの繁榮を予測する。

◇ 富士山。静かに郷土の繁榮を見守る富士は、あすへの象徴であり、繁榮への指針である。厳しい現実のなかで、繁榮が芽ばえる。その芽を守り、育てるのが昭和四十一年である。

写真は富士川町の東名高速道路工事現場

ことしから大学生の急増期

浜松に女子短期大学

薬大も定員、学科をふやす

戦後のベビーブームの波は、ことしからいよいよ大学に押し寄せ、大学進学希望者が急増している。

こうした問題を解決していくため、現在県では、独自の大学生急増対策として県立大学、短期大学の施設整備と拡充に着手している。

静岡県薬科大学に製薬学科、薬学科を増設し、二学科制として定員を合計百二十人にふやす予定だ。

静岡県薬科大学は、これまで薬学科（定員八十人）が二学科だけでしたが、新しく製薬学科を増設し、二学科制として定員を合計百二十人にふやす予定だ。

昭和二十六年に開設された、県下の女子高等教育に大きな役割を果たしているが、静岡市十一、四月からは、入定員百二十人、四科を擁するが、静岡市

北東部の現校舎は県立城北高校と隣接し、共用施設もあり、大学として理想的な状態にあるといえる。

このため、静岡市草薙の県文化センター敷地内へ移転整備するのにもした。

と、薬学では全国屈指の大学院大学となり、今後県内に進出してくる製薬関係企業の中堅技術者の養成機関としても期待されている。

静岡女子短期大学の移転、次に静岡女子短期大学は、昭和二十六年に開設された、県下の女子高等教育に大きな役割を果たしているが、静岡市十一、四月からは、入定員百二十人、四科を擁するが、静岡市



写真は女子短大草薙校舎の起工式で搬入される資材知事

祖国に求める若い血

～ブラジルからのたより～

昭和10年にサントス港に第一歩を印して30年。厳しい試練の積み重ねのなかでようやく750町歩の土地を購入、うち112町歩のアッサム茶園と75町歩のパナナ園を経営するまでになりました。

一方、紅茶の世界市場に立ち打ちできるように、邦人の共同事業により荒茶製造能力1,000トン、精製能力2,000トン、投下資本3億円(日本円)の近代工場を建設。組合員127人をもって、現在着々とその業績の向上に努力しています。

ここで生産された製品の大半は、ヨーロッパ市場へ送り込まれています。私たちの住むレズストロも、かつてはペイラ盆地の広大な原始林の中に孤立していましたが、50数年の風雪に耐えたいま、南米大陸を北から南(ウグアイ、パラグワイ、アルゼンチン)にかけて縦断する国際幹線道路の開通で、ものの2～3時間でサンパウロ市に行けるようになりました。ブラジルはまさに無限の可能性に富んだ若い国です。日本との文化の落差は、むしろ私たちに大きな活動の場をあたえ、この国では平凡な能力しかない人でも、非凡な人として認められます。ブラジル在住50数万(静岡県出身は千数百家族)の同胞は、技術の面でも生産の面でも他の国の移民を断然リードし、そうした中で、私たちがいま日本を求めているのは、不屈の斗志を持つ青年たちの血と、それに基づく高い文化です。

(在ブラジル静岡海外協会会長・山崎良作)

興させるため、本年四月から浜松市(静岡教育学区浜松分校)に、静岡女子短期大学の浜松分校を開設することにした。

学科の内容は、文科(国文、英文)の二学科で、入学定員は六十人です。

そしてこしは、静岡女子短期大学浜松分校として運営しますが、校舎や校地の整備を待つことなく、独立の短期大学として、家政学科または生活科学科を増設する計画もありました。

なお国立静岡大学は、国をこしは、静岡女子短期大学と併設整備計画が、静岡市片山地区への移転拡充計画を、昭和四十四年完成をめぐり、現在着々とすすめておられます。

県民ひとり一スポーツ

体力づくりの県民運動

最近の児童・生徒の体力、体力は、食生活の改善や体育スポーツの振興などによって戦前の水準をはるかに上まわっている。しかし、こうしたなかで、県民の体力を全国平均に比較してみても、残念ながらかつての水準に劣っているのが数字にあらわれている。

県下の児童・生徒の体力は、「長身やせ胸・軽量型」であり、また都市と農村の体力差もいちじるしいものがある。

一方、栄養の摂取状況は、

おとな一日当り食費の全国平均は百五十八円、十五円も低く、肉類の摂取量は全国平均の半分、乳製品や卵なども非常に少ない数字を示している。そこで、栄養診断や県民ひとり一スポーツなどを、みなさんの協力によって積極的にすすめていこう。

このころは、県民のひとり一スポーツの推進に、行政面だけでは完全な解決はできず、民間の力を活用して展開していく必要がある。そこで、県民ひとり一スポーツの推進に、行政面だけでは完全な解決はできず、民間の力を活用して展開していく必要がある。そこで、県民ひとり一スポーツの推進に、行政面だけでは完全な解決はできず、民間の力を活用して展開していく必要がある。

青少年に明るい環境を

『家庭の日』など推進へ

最近の社会の急激な発展に伴って、青少年にもこの影響が及ぼされつつある。とくに非行の面からみると、映画や図書などのマスコミ関係、家庭における親子の関わり、それに消費生活の変化などが複雑に入りまじって強く影響を及ぼしている。

そこで、こうした青少年問題を社会的責任として解決していくため、県青少年対策協議会では今までの対策に加え、次の三つの対策を積極的に推進していくことにしている。

◆青少年教育の振興
県下の青少年(15才)25才)に学習の機会を多く与

◆田代宗作 小山町 農業師
新春にあたり健康に感謝するとともに、地域開発による世相の転換の速きに驚く。願わくば暮らしの底に道徳の復興と、虚勢のたつたりのない平和と良識の社会を求めたい。

◆立石みつえ 大須賀町 主婦
くたびれた服装、真直な顔、水場、植物園(母子センター)公民館等々。わが町への夢は、ことしは、清水市。

◆田中 穂 清水市 店員
私たちの商業青年学級を多くの商店員によびかけて、親睦をほかに、体験と知識をたくわえながら、店の繁栄をはかっていきたい。

◆塚本操郎 大浜町 商業師
私の目前に商店街が並んで、大浜町。人と車の多いのはなやかなこと。これが正義だ。

◆露木義治 両南町 工員
世の中には月並みなことがたくさんあるが、その多くは実行に移す必要がない。実行に移す必要がない。

◆戸田ひろみ 豊岡村 主婦
やがて子どもが一人前になる日がきたら、これまで積み重ねたさまざまな能力を生かして社会に役立ちたい。

◆中村とよ 金谷町 店員
私は店員という職業を通じて、みなさまの消費生活の合理化につとめています。本年も同志とともに、その奉仕の精神で前進したい。

◆中野 茂 原町 工員
広い道路、交差点の立体化、建ち並ぶ住宅地、図書館、病院、アーケード、電光の映るアール・コート街など、郷土の理想図に期待している。

◆西尾佐江子 掛川市 主婦
ますます明るい家庭生活を築き上げたい。健康を感謝し、自己に過した仕事を生かす。

◆相良 謙一 農業師
壮哉なる初日を仰ぐ、清純無垢な気持ちを失わず、この一年を、土、とともに生かす。ベストを尽くしたい。

◆平沢の枝 伊豆長岡町 主婦
このころ、結婚予防婦人会の首成に自治体が強力に後援していただきたい。忙しい中にも、うるおいの心を忘れぬようにしたい。

◆深沢光枝 芝川町 主婦
三人の子どもの成長は私の心のもちきり。少しの苦労のある生活を積み重ねて、愛情をほほえみにして、夫婦ともどもに、社会にも、夢、そんな他愛もないことが多忙にまぎれずに近い現在、自分自身を奮起させたい。

◆三浦秀子 吉田町 主婦
夢、そんな他愛もないことが多忙にまぎれずに近い現在、自分自身を奮起させたい。

◆村田美根子 袋井市 主婦
安泰であれ、一九六六年。不況の風は冷たいが終戦時を偲べない。

◆八木一男 藤枝市 事務員
激動する現代、そんな中で生きている私たちは、とすれば孤立しがちである。そうすれば、心の中で日々の生活が無事なことに感謝しながら、温厚な日本の農業から世界の農業に仲間入りした現在、われわれに不足なものは豊かな教育と繁栄のセンスです。

◆米山静雄 水窪町 林業師
郷土の林業は天然林依存から育成林へ、さらには栽培林への転換をすすめていこう。さし、それ以前の課題として、お天日、田子の浦港より原子力船で一路南極へ。元日の朝昭和港へ入港。早速、極地行特急列車に乗り込む。すばらしい南極の初日。(アイウエオ順)



抱負の願い

◆田代宗作 小山町 農業師
新春にあたり健康に感謝するとともに、地域開発による世相の転換の速きに驚く。願わくば暮らしの底に道徳の復興と、虚勢のたつたりのない平和と良識の社会を求めたい。

◆立石みつえ 大須賀町 主婦
くたびれた服装、真直な顔、水場、植物園(母子センター)公民館等々。わが町への夢は、ことしは、清水市。

◆田中 穂 清水市 店員
私たちの商業青年学級を多くの商店員によびかけて、親睦をほかに、体験と知識をたくわえながら、店の繁栄をはかっていきたい。

◆塚本操郎 大浜町 商業師
私の目前に商店街が並んで、大浜町。人と車の多いのはなやかなこと。これが正義だ。

◆露木義治 両南町 工員
世の中には月並みなことがたくさんあるが、その多くは実行に移す必要がない。実行に移す必要がない。

◆戸田ひろみ 豊岡村 主婦
やがて子どもが一人前になる日がきたら、これまで積み重ねたさまざまな能力を生かして社会に役立ちたい。

◆中村とよ 金谷町 店員
私は店員という職業を通じて、みなさまの消費生活の合理化につとめています。本年も同志とともに、その奉仕の精神で前進したい。

◆中野 茂 原町 工員
広い道路、交差点の立体化、建ち並ぶ住宅地、図書館、病院、アーケード、電光の映るアール・コート街など、郷土の理想図に期待している。

◆西尾佐江子 掛川市 主婦
ますます明るい家庭生活を築き上げたい。健康を感謝し、自己に過した仕事を生かす。

◆相良 謙一 農業師
壮哉なる初日を仰ぐ、清純無垢な気持ちを失わず、この一年を、土、とともに生かす。ベストを尽くしたい。

◆平沢の枝 伊豆長岡町 主婦
このころ、結婚予防婦人会の首成に自治体が強力に後援していただきたい。忙しい中にも、うるおいの心を忘れぬようにしたい。

◆深沢光枝 芝川町 主婦
三人の子どもの成長は私の心のもちきり。少しの苦労のある生活を積み重ねて、愛情をほほえみにして、夫婦ともどもに、社会にも、夢、そんな他愛もないことが多忙にまぎれずに近い現在、自分自身を奮起させたい。

◆三浦秀子 吉田町 主婦
夢、そんな他愛もないことが多忙にまぎれずに近い現在、自分自身を奮起させたい。

◆村田美根子 袋井市 主婦
安泰であれ、一九六六年。不況の風は冷たいが終戦時を偲べない。

◆八木一男 藤枝市 事務員
激動する現代、そんな中で生きている私たちは、とすれば孤立しがちである。そうすれば、心の中で日々の生活が無事なことに感謝しながら、温厚な日本の農業から世界の農業に仲間入りした現在、われわれに不足なものは豊かな教育と繁栄のセンスです。

◆米山静雄 水窪町 林業師
郷土の林業は天然林依存から育成林へ、さらには栽培林への転換をすすめていこう。さし、それ以前の課題として、お天日、田子の浦港より原子力船で一路南極へ。元日の朝昭和港へ入港。早速、極地行特急列車に乗り込む。すばらしい南極の初日。(アイウエオ順)